

## D分科会

子どもを見る眼-子ども達がのめり込む運動遊びとは-

座長 / 中村和彦

パネリスト / 石井友光・菅原健次

D分科会は「子どもを見る眼-子ども達がのめり込む運動遊びとは-」をテーマに行いました。

座長を務めた山梨大学教育人間科学部准教授の中村和彦氏は、本分科会の中で「スポーツ」という言葉ではなく「運動遊び」という言葉を用い、今の小学生の育ちにとって本当に必要なことは、競技志向の強い体育スポーツよりも生活崩壊（ライフハザード）の改善だと述べました。子どもは毎日しっかりと食事を摂り、からだを使った運動遊びを行い、ぐっすりと眠ることが大事だと提言。昔は当たり前だった「子どもの姿」が崩れている現状を調査し、その結果をグラフや数字で示しました。

その他、今年度から施行されている新しい学習指導要領を例に挙げ、子どもの運動遊びの重要性、学校とスポーツ少年団の連携の大切さを指摘しました。

次に、今年3月まで都内の小学校で校長を務めていた、東京福祉大学教授の菅原健次氏が、体育の授業で実践し、検証した内容について動画を交えた発表を行いました。また、「子どもたちに運動を楽しく、面白くさせるポイント」など、今の子どもの目線に立った研究結果も報告。

また、帝京平成大学現代ライフ学部専任講師である石井友光氏からは、プレーリーダーの立場から、小学生の子ども達の発達に見合った運動提供のあり方や運動の仕方についてご意見をいただきました。

最後に中村氏が、いかに子どもがのめり込んで運動遊びができるかを、参加者の皆さん同様、スポーツ少年団にかかわる一員として、今後も探っていきたいと述べ、終了しました。